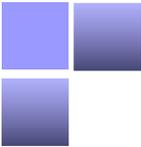


日本における視覚障害者等用データの流通の概要 — 国立国会図書館とサピエ図書館 —



用語

○視覚障害者等

著作権法第37条第3項で定義される用語。視覚障害のほか、肢体不自由やディスレクシアなどの理由により、視覚著作物（紙の本）をそのままの方式では利用することが困難な状態の者をいう。プリント・ディスアビリティのある者とほぼ同義。

○視覚障害者等用データ

視覚著作物（紙の本）を、録音図書（音訳）、点字（点訳）、テキストデータ等の、視覚障害者等が読書できる形式に変換したデータ。

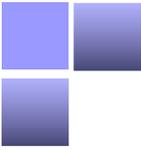
○視覚障害者等用データ送信サービス

国立国会図書館が製作又は収集した視覚障害者等用データを、当館に利用者登録した視覚障害者等及び当館が承認した図書館等に対して送信するサービス。みなサーチ（国立国会図書館障害者用資料検索）で提供している。書誌検索は誰でも可能だが、視覚障害者等用データのダウンロードは視覚障害者等としての利用者登録が必要。

2023年3月からは、国立国会図書館デジタルコレクションの画像データから、OCR（光学的文字認識）処理により作成したテキストデータ（全文テキストデータ）約247万点の提供を開始。

○サピエ図書館 <https://www.sapie.or.jp/>

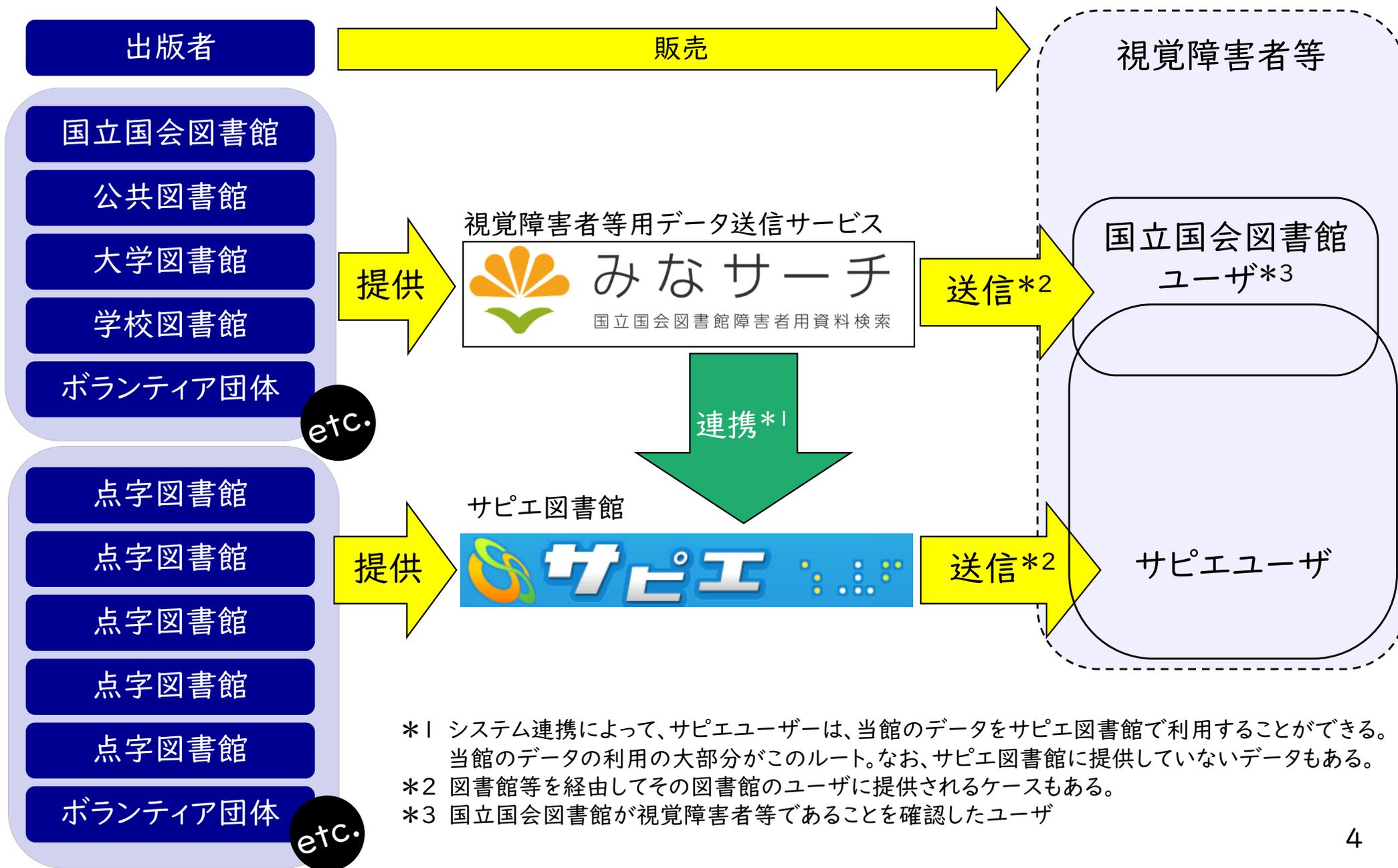
全国視覚障害者情報提供施設協会（全視情協）が運営する視覚障害者等を対象とした電子図書館サービス



視覚障害者等用データの流通の概況

- 出版社から出版されるものはごくわずか
- 著作権法の権利制限規定に基づいて、日本各地の図書館等で分散的に製作している
 - 国立国会図書館
 - 公共図書館
 - 点字図書館
 - 大学図書館
 - 学校図書館
 - 一部のボランティア団体
- データ形式
 - 大部分は、点字データと音声DAISY
 - 近年はテキスト系データも少しずつ増えている

視覚障害者等用データの流通の概況



日本における視覚障害者等用データの流通

データを収集して送信する2つのサービスの比較(2024年1月末時点)

	国立国会図書館 (視覚障害者用データ送信サービス)	全国視覚障害者情報提供施設協会 (サピエ図書館)
サービス開始年	2014年	1988年 (前身のてんやく広場等を含む)
収集の対象	○点字図書館以外 *サピエ図書館が収集対象としていない著作権法 第37条第3項の複製の主体全て ○マラケシュ条約締約国の図書館等	主に点字図書館
データ提供館	137館	485館(施設・団体会員)
データ利用館	313館	
個人ユーザ	735人	2万614人
データ件数(概数)	点字データ…2800 音声DAISY…3.6万 マルチメディアDAISY…850 テキストDAISY…140 テキストデータ系データ(※)…247万(全文テキ ストデータを含む)	点字データ…26.2万 音声DAISY…12.2万 マルチメディアDAISY…479 テキストDAISY…1.5万
2022年度年間ダウンロード(概数)	69万	506万

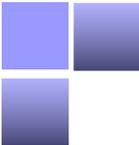
※テキスト系データについては、サピエ図書館から利用できない。

視覚障害者等用データ送信サービス

■ データの種類と件数 (2024年1月末時点)

点字データ	2,762
音声DAISY	36,740
マルチメディアDAISY	853
テキストDAISY	142
EPUB	181
透明テキスト付PDF	539
Word (DOCX)	416
プレーンテキスト (全文テキストデータも含む)	2,466,735
合計	2,508,368

点字データと各種DAISYは、サピエ図書館からの利用も可能
(海外から輸入したデータを除く)



最近の視覚障害者等用データ送信サービスの動向

- 読書バリアフリーの推進に向けて、みなサーチ正式版を公開（2024年1月）

https://www.ndl.go.jp/jp/news/fy2023/240105_02.html

- デジタル化資料の全文テキストデータの提供開始（2023年3月）

https://www.ndl.go.jp/jp/news/fy2022/230328_01.html